

千葉市感染症発生動向調査情報

2020年 第46週 (11/9-11/15) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

| 報告のあった定点数 | 46週 | 45週 | 44週 | 43週 |
|-----------|-----|-----|-----|-----|
| 小児科 | 18 | 18 | 18 | 18 |
| 眼科 | 5 | 5 | 5 | 5 |
| インフルエンザ* | 28 | 28 | 28 | 28 |
| 基幹定点 | 1 | 1 | 1 | 1 |

上段:患者数

下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

| 定点 | 感染症名 | 千葉市 | | | | | 千葉県 |
|------|---------------------------|-----|------------|-----------|------------|-------------|-----------|
| | | 注意報 | 11/9-11/15 | 11/2-11/8 | 10/26-11/1 | 10/19-10/25 | 11/2-11/8 |
| | | | 46週 | 45週 | 44週 | 43週 | 45週 |
| 小児科 | RSウイルス感染症 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 咽頭結膜熱 | ○ | 4 | 0 | 0 | 0 | 10 |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | | 5 | 1 | 2 | 6 | 88 |
| | 感染性胃腸炎 | | 25 | 11 | 22 | 28 | 139 |
| | 水痘 | | 4 | 3 | 2 | 2 | 32 |
| | 手足口病 | | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | 伝染性紅斑 | | 1 | 0 | 1 | 1 | 3 |
| | 突発性発しん | ○ | 12 | 10 | 14 | 10 | 55 |
| | ヘルパンギーナ | | 4 | 2 | 6 | 6 | 5 |
| | 流行性耳下腺炎 | | 3 | 1 | 2 | 1 | 5 |
| インフル | インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く) | | 0 | 1 | 1 | 0 | 4 |
| 眼科 | 急性出血性結膜炎 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 流行性角結膜炎 | | 2 | 0 | 1 | 2 | 7 |
| 基幹定点 | 細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 無菌性髄膜炎 | | 3 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| | マイコプラズマ肺炎 | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | クラミジア肺炎 (オウム病を除く) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| | 感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る) | | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |

★★:流行中 ★:やや流行中 ○:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(77件)

※新型コロナウイルス感染症75件は数のみ

| 病名 | 性 | 年齢層 | 診断(検査)方法 | 病名 | 性 | 年齢層 | 診断(検査)方法 |
|------|----|------|------------|--------------|----|----------|------------|
| 結核 | 男性 | 70歳代 | 病原体遺伝子の検出等 | 新型コロナウイルス感染症 | 男女 | 0歳代~90歳代 | 病原体遺伝子の検出等 |
| 急性脳炎 | 男性 | 10歳代 | 高熱・中枢神経症状等 | - | - | - | - |

*第46週は、結核1件(136)、急性脳炎1件(10)、新型コロナウイルス感染症75件(929)の発生届があった。

※ ()内は2020年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

定点当たり報告数 第46週のコメント

<咽頭結膜熱> 前週より増加し、過去10年の同時期と比べると多めとなった。

<突発性発しん> 前週より増加し、過去10年の同時期と比べると多めとなった。

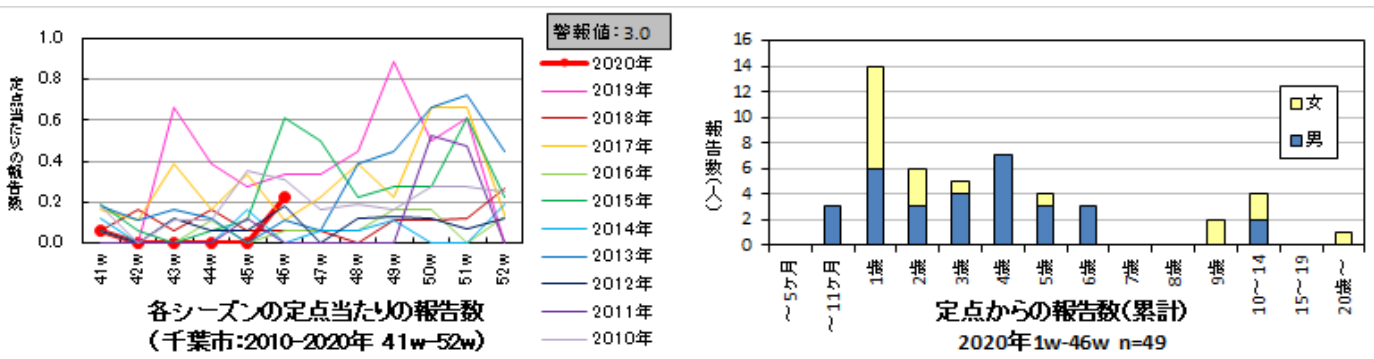
■ トピック ■

＜咽頭結膜熱＞

全国レベルの第45週は0.18で、過去10年の同時期と比べると最少となっています。都道府県別では、福岡県、鹿児島県、北海道の順に多く報告されています。千葉県は0.07で全国レベルと比べると少なくなっています。

千葉市の第46週は、前週より増加し0.22となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、若葉区で最多で、同区の6-11か月、1歳及び2歳での発生報告がありました。2020年第1週から第46週までの累積報告数は49件で、男性が63.3% (31件)、女性が36.7% (18件)で、年齢階級別では1歳(28.6%:14件)、4歳(14.3%:7件)、2歳(12.2%:6件)の順でおおくなっています。

咽頭結膜熱は、発熱、咽頭炎、眼症状を主とする小児の急性ウイルス性感染症です。通常は夏期に流行しますが、冬期に小流行がみられることもあります。病原体はアデノウイルスで、感染力は非常に強く、患者の咳やくしゃみなどのしぶきに含まれるウイルスによって感染したり(飛まつ感染)、ウイルスが付着した手や、患者が触れたタオルなどを介して感染します(接触感染)。潜伏期間は5~7日程度で、発熱・咽頭炎・結膜炎を3主症状とします。症状は1~2週間程度でおさまります。予防方法は、手洗い、うがいを心がけ、特にプールや温泉施設を利用する際は、前後のシャワーを必ず浴び、タオルは個別にし、石けんと流水で十分に手を洗うことです。



＜突発性発しん＞

全国レベルの第45週は0.39で、過去10年の同時期と比べると少なくなっています。都道府県別では、福岡県、山形県、佐賀県の順に多く報告されています。千葉県は0.41でほぼ全国レベルと同等となっています。

千葉市の第46週は、前週より増加し0.67となり、過去10年の同時期と比べると多めとなりました。区別の発生状況は、花見川区で最多で、同区の1歳で発生報告がありました。2020年第1週から第46週までの累積報告数は489件で、男性が53.0% (259件)、女性が47.0% (230件)で、年齢階級別では1歳(57.5%:281件)、6-11か月(22.9%:112件)、2歳(15.3%:75件)の順で多くなっています。

突発性発しんはヒトヘルペスウイルスによる感染症で、生後4か月ごろから1歳ごろまでの乳幼児に発生する代表的な疾患です。予後は一般に良好で、初感染以降は潜伏感染状態となり、ウイルスは断続的に唾液中から排泄されます。38度以上の発熱が3日間ほど続いた後、解熱とともに鮮紅色の斑丘疹が体幹を中心に顔面、四肢に数日間出現します。通常予後良好な疾患であることから、特別な予防法や予防接種はありません。

